

第 1 回 SWIM コミュニティ (SWIMEE)

議事概要

日時：令和 7 年 3 月 7 日（金）13:30 ～ 16:45

場所：中央合同庁舎 3 号館 10 階共用会議室（ハイブリッド会議）

○冒頭、航空交通管制サービス高度化センター情報高度化推進課長よりコミュニティ参加者に対して感謝の意が述べられるとともに、この活動を今後の SWIM の改善や発展につなげたい旨が表明された。

○航空局から SWIM 管理者、SWIM レジストリ・サービス提供者、SWIM 情報サービス提供者の紹介を行うとともに、以下の資料について説明を行った。

- SWIM の概要（航空交通管制サービス高度化センター）
- SWIM コミュニティ設置・運営要領について（航空交通管制サービス高度化センター）
- SWIM portal に関する報告（航空交通管理センター）

○航空局から「SWIM で入手できるようにしてほしい情報」について課題提起を行うとともに、参加者との意見交換を実施した。意見交換の概要は以下の通り。

- スポットに関する情報を SWIM において入手できるようになれば航空会社としては効果的。国管理空港で運用している統合スポット管理システムを SWIM のプラットフォームで活用し、“見える化”することが有効。また、運航情報官からメールで入手しているスポットの制限や月次・日時調整なども含めて SWIM において一元的に共有・調整できるようになれば、一層、航空関係者にメリットがある。（航空会社 A）
- ☆ ニーズについては理解している。スポット情報及びスポット情報に紐づく情報は ATS リクエストサービスを拡充し提供することも検討している。また、コミュニティにおいてニーズの深掘りも実施したい。（航空局運用課）
- ☆ サービスの使用感、機能要件はご利用の用途に合うように調整していく。（航空局運用課）
- 様々な社がいるため、一つの手法ではなく API、ブラウザといった複数の提供方式も検討いただきたい。（航空会社 A）
- スポット使用計画情報等は羽田、成田などの主要空港のみならず、全国の空港を対象としたものにして頂きたい。チャーター便を計画する際に、現状では既存の情報共有サイトからスポット情報を確認するが、空港単位でサイトの造りが異なっている状況。また、スポット情報も SWIM を活用して必要な時に必要な情報を入手できるようしていただきたい。（航空会社 B）
- ☆ 空港の対象範囲は利用状況、ニーズ等を確認して検討していく。スポット使用計画は旅客担当の案内やグランドハンドリングの要員配置、二次交通への活用も期待できることから、コミュニティを通じてユースケースの確認、課題の明確化に繋げていきたい。（航空局運用課）

- その他の ATM 関連システムも SWIM に統合すれば、維持管理の費用削減や情報の一元化によるユーザー側のメリットも大きいと考える。（航空会社 B）
 - ✧ 関係者の共通の認識として理解しているので、引き続き調整していく。（航空局運用課）
 - ✧ スポット関係情報については、国管理空港は全て SWIM への統合の対象とする予定。地方管理空港や会社管理空港については今後調整させていただき、どのように実現していくのか検討していきたい。次回以降に検討状況を共有させていただく。（航空局運用課）

- 当空港では空港 CDM を導入しており、スポット情報は空港 CDM の情報の 1 つとして PDF で掲載しており確認可能。正確な運航情報も確認できるため、空港内事業者にも空港 CDM への参加を呼びかけ情報を有効活用している。また、スポットや運航情報を欲している者は空港会社、航空会社以外にも多くいる。（空港会社 A）

- 運航者が FAIB に提出する運航計画書の写しを空港会社は入手し、それをマニュアルで自社のシステムに転記している状況。直近 1 ヶ月では 1000 件程度あることから、課題の一つと考えている。具体の処理としては、メールで Excel が送付され、それを元に自社のシステムへフライトの作成や時刻変更といった対応をしている。スロットリクエストサービスによってデジタル化されていくので、中長期的な議論をしていきたい。（空港会社 B）
 - ✧ 空港会社 B 様から頂いたご意見について、個社の課題というよりは、空港管理者の皆様との共通の課題であり、同様に不効率さを感じたり、また違った視点で悩まれている方もいらっしゃるのではないかと思います。参加の空港管理者の皆様からは是非ご意見を頂きたい。（航空局運用課）
- 当空港では弊社のシステムと航空局の統合スポット管理システムが接続しており、日次調整データはオンラインで入手できている。また、月次調整は東京 FAIB から月次調整完了後のデータを CSV ファイルで入手し、システムに取り込んで運用している。（空港会社 A）
 - ✧ ご発言いただいた課題は今後も詳細を確認させていただきたい。また、次回以降、空港会社様にも具体的な課題などを資料化してご発表頂くことで、課題認識を含め、より活発な意見交換になるのではないかと考えている。是非、お願いしたい。（航空局運用課）

- 当空港の空港内事業者でニーズが高いのが運航情報と運航情報の変化である。そのため弊社で空港関係者と更なる情報共有を進めるため新たな情報共有ツールの導入を予定しており、SWIM と連携することを進めていきたい。空港の混雑対策にあたっては、保安検査場や出入国審査場においては旅客数データが重要な情報となる。予め把握することでどの時間帯が混雑するのか、二次交通の用意の予測にも繋がる。今は自前で旅客数予測を算出しているが、精度は限定的であるため、コミュニティの場において旅客数データを共有できるような議論を進めていただきたい。（空港会社 A）
 - ✧ 別の会議体であるが、旅客数データの共有については、過去に同様の議論があったと承知している。次回以降、旅客情報を利用するユースケースや現状の課題について空港会社様から発表していただき、関係者と理解を深めることから始めるのではないかと考えている。（航空局運用課）
 - ✧ 混雑は人手不足やその他リソース不足が要因である場合もあるので、旅客数と体制がいかにマッチングさせるかといった視点でも一緒に検討していきたい。（空港会社 A）

- ✧ 弊社としても旅客数の入手については課題の一つである。予約における旅客数はエアラインとしてもセンシティブな情報であり、かつ数字が変動するものなので取得には一定のハードルがあると考えている。とはいえ、有益な情報であることは間違いなので、SWIM コミュニティの場で実現の可能性を検討できればと思う。（空港会社 B）
- ✧ 航空会社としては、旅客数を共有することによりどのような変化が起きるのかを把握したい。それにより開示する必要性等が見えてくるのではないかと考えている。また、スポットについて、ダイバート発生時にどの空港でどのスポットが空いているか SWIM を通してタイムリーに把握したいため、併せて検討いただきたい。（航空会社 C）

○航空交通管制サービス高度化センターから「情報サービスの利用審査と提供方式」について説明を行うとともに、参加者との意見交換を実施した。意見交換の概要は以下の通り。

- 利用審査がないサービスは個人で申請しても良いか。SWIM においては組織としてのメールアドレスを使用しなければならないのか、それとも組織として個人のメールアドレスを使用しているのか。（空港会社 A）
- ✧ 利用審査がないものは個人での利用も可能である。ただし、SWIM 運用規程における利用規約上、アカウントの発行は必要最小限としている。一つのアカウントで同時にログインが可能であり、必要最小限のアカウントとして頂きたい。（航空交通管理センター）
- 定期運送事業者、使用事業者、ジェネアビなど利用者毎に利用できるサービスを分けて解説していただきたい。（航空会社 C）
- ✧ 要望のあったガイダンスの作成を検討していくので、今後ご意見等聞きながら進めていきたい。（航空交通管制サービス高度化センター）
- フライトプラン登録サービスの API 連携を検討しているが、担当部署を教えてください。また、確認書はシステムを構築するベンダーが提出するものか。（航空会社 D）
- ✧ フライトプラン登録サービスの情報サービス提供者は東京/関西 FAIB となるため、FAIB に連絡いただきたい。（航空局運用課）
- ✧ 航空会社や空港会社の皆様において自製しているシステムは少なく、ほとんどがパートナーであるベンダー企業に依頼してシステムが構築されているものと理解している。そのようなベンダー企業も ATM サポート企業として情報サービスへのアクセスを可能としている。そのため、ベンダー企業から各情報サービス提供者に調整することは可能である。（航空局運用課）

○航空交通管制サービス高度化センターから「今後の活動計画」を説明するとともに、参加者との意見交換を実施した。意見交換の概要は以下の通り。

- 次回開催に弊社が関係しているシステムベンダーを参加させることは問題ないか。（航空会社 C）
- ✧ 問題ない（航空交通管制サービス高度化センター）

- ◇ 是非、本コミュニティを参加者の口コミや我々の案内の転送でも構わないので広げていただきたい。
(航空局運用課)
- SWIMEE 開催日のお知らせについて、できるだけ早い時期に教えていただきたい。運航乗務員を兼ねている担当もあり、周知が遅くなるほど参加が難しくなってしまう。また、情報サービスの利用が開始されていないため、SWIM ユーザーと航空局側で情報の量の差が大きいと感じる。その差を埋めるための検討をしていただきたい。(運航者団体 A)
- ◇ 開催日は最低でも 1 ヶ月前に周知にできるよう努める。また、4 月に 1 月と同様なプレ公開を予定している。関係者の皆様に使用感を確認していただきつつ、情報量の差を埋めることの一助としてと思っている。(航空局運用課)
- プレ公開について、AIS JAPAN に係るものは全て使えるのか。(航空会社 A)
- ◇ そのとおり。1 月のプレ公開と同様に操作感を確認してほしい。(航空局運用課)
- ◇ プレ公開は模擬データを用いた操作感の確認となる。実運用には使えないことをご注意頂きたい
(航空局システム室)

以上